

[WSJ] ネットから “ 自分 ” を消すのは難しい？

見られたくない昔の写真、恥ずかしい酒の上での「武勇伝」、誰かが勝手に投稿した偽プロフィール ネットから自分の情報を消すのは、難しいこともある。

2006年07月18日 08時00分 更新

(ウォール・ストリート・ジャーナル)

少し前に「クレイグ・プラット」という名前をWebで検索すると、プラットさんの個人サイトの写真 ジーンズとハイヒールを履いた2本の足の間に立っている彼の姿を写した が出てきた。このサイトには彼のさまざまな酒の上での “ 武勇伝 ” を物語る写真や、彼のデートの時の習慣についての友人のコメントが載せられていた。

数カ月前、プラットさん(22)は突然オンライン上の自分を消さなければならぬと思った。彼はサンフランシスコのPR会社で就職面接を受けたばかりだった。その会社がMySpace.comで彼の乱暴な姿を見つかるかもしれないと心配になり、「パニックに陥りだした」と彼は語る。MySpaceはNews Corp.が所有するソーシャルネットワーキングサイト(SNS)で、彼はそこに、検索結果に出てきた例のページを掲載していた。

そこで彼は新しい自分をオンラインに作り、恥ずかしい写真を除いた新しいプロフィールを作成した。友人のコメントにも注意を払い、問題のあるコメントは見つけ次第すぐに削除している。好きな本もハードコアゲイ雑誌「Honcho」 これは冗談だが から「チャールズ・ディケンズ全集」に変えた。

だが新しい自分を作るのは、過去の自分を消すことに比べればずっと簡単だった。プラットさんはMySpaceにメールを送り、古いページを削除してくれるよう頼んだという。だが、何も起こらなかった。彼は少なくとも8回、もっと切羽詰まったメッセージをMySpaceに送った。MySpace共同創設者のトム・アンダーソン氏にもだ。その後ようやく彼は不可解なメールを受け取った。そのメールは、自分のユーザー名(craigisanidiot)とパスワードをマーカーで紙に書いて、その紙を持った姿を写真に撮り、「わたしをMySpaceから削除してください」と書いたメモと一緒にMySpaceに送るよう指示するものだった。

下品な昔の自分はやっと消えた。MySpaceの広報担当ダーニ・デュデック氏は、プラットさんはMySpaceにメールを送らなくても、マウスのクリック数回でプロフィールを消せたはずだと話す。だが、プラットさんはその方法ではだめだったと言う。

「自分のアカウントを消すのは不可能なことではない。利用者は毎日そうしている」とデュデック氏は語る。同氏は、プラットさんとのやり取りを調べることはできなかったが、彼の体験は異常に思えると話す。

何年もの間Web中に自分の足跡を残してきた人たちは、それを消すのが難しいことに気がつくつある。ペンシルベニア州イーストライズバーグに住むメディア学教授スーザン・エイミリアンさん(54)は、2年間で100ポンド(45キロ)以上体重を落とし、オンラインで恋人探しを始めようとしている。だが、Googleの画像アーカイブから自分の太っていた頃の写真を取り除くのにかなり苦労した。彼女は、Webページに古い写真を載せた以前の勤務先や学術出版社にメールを出し、写真を削除するという同意を取り付けた。だが、Googleのヘルプデスクに削除を求めるメールを送ったにもかかわらず、Googleの画像検索ツールにはその後も数カ月にわたって古い写真が表示された。

最近離婚したエイミリアンさんは、恋人になるかもしれない男性たちがあの古い写真を見たら、彼女を避けるだろうと考えている。「彼らがGoogleでわたしを検索したら、あの醜い写真が出てくる」と彼女は言う。Googleの広報担当者は、顧客との通信は非公開との方針を挙げ、エイミリアンさんのケースについてのコメントを避けた。

GoogleとYahoo!は、ユーザーからデータ削除の手助けを求める要望がどのくらいの頻度で寄せられているかを明かしていない。両社によると、そのような問い合わせへの典型的な返答は「それはできかねます」というものだという。両社の広報担当者によると、両社ともたいていは、問題のデータを掲載した人物と話し合うことが最も効果的な方法だと説明するメールを送っているという。「Googleがそのデータを削除したからといって、それがインターネットから消えるわけではないということを知ってもらおうが大仕事だと思う」とGoogleの広報担当ソーニャ・ポラルフ氏は語る。

それでも検索企業各社は、特定のWebサイトへのリンクを削除するケースがまれにあると言う。例えば、Yahoo!はユーザーから通報があった場合に、社会保障番号やクレジットカードデータなどの機密情報を掲載するページへのリンクを外していると社の広報担当者は説明する。

Yahoo!の姿勢は、オレゴン州ポートランドに住むセシリア・バーンズさん(49)には満足いくものではなかった。彼女は昨年、マルトノマ郡巡回裁判所で同社を訴え、300万ドルを要求した。バーンズさんは訴状の中で、元恋人が彼女の名前でYahoo!のあるセクションに偽のプロフィールを投稿したと訴えていた。そのプロフィールには、ヌード写真や彼女の職場の連絡先も含まれていたという。Yahoo!は最終的にはこのプロフィールを削除したが、バーンズさんはもっと早く削除するべきだったと主張した。

この訴訟は、「第三者がWeb上で公開した素材に関して、インターネット企業に法的責任を負わせることはできない」とする1996年通信法を根拠に棄却された。バーンズさんは第9巡回区連邦控訴院に控訴しているところだ。彼女は弁護士トーマス・ラスク氏を通じてコメントを断った。

シアトルのコンピュータプログラマー、マット・テリックさん(32)は最近、友人たちが冗談で、テリックさんの名前で偽の性具レビューをAmazon.comに投稿したことを知ってがく然とした。彼は5月に、暇つぶしに自分の名前をGoogleで検索していてこの悪ふざけを発見した。このレビューは検索結果の2ページ目に表示された。友人たちが誰もこのいたづらを認めなかったため、テリックさんはAmazonのカスタマーサービスに手紙を送った。「友人がふざけて投稿したものであるので、あのコメントを削除してください。Googleの検索結果に出てくるんです。不愉快です」

テリックさんはこのとき、結婚式の招待状のデザインという事業を始めようとしていた。数日経ってもAmazonから返事はなく、彼は必死になっていった。彼に厳しく問い詰められた友人たちは悪ふざけを認め、Amazonに投稿した問題のレビューを削除した。

昨年、ジョージア州ブラセルトンに住む会計士ヘザー・アン・ホーガンさん(27)は、何年も話もしていなかった古い友人と地元のレストランで偶然会った。その友人は数分もしないうちに、ホーガンさんが最近経験したひどいデートについて尋ねた。その友人が自分のブログを読んでいるのだと気付いて、ホーガンさんはゾッとした。そのブログは、彼女の名前をWebで検索すると見つかるのだ。

そこでホーガンさんは、マーケティング業者がWebサイトの検索順位を上げるために使っている手段(フルネームをブログのタイトルに入れるなど)を研究し、逆のことにした。ブログの特定の部分から自分の名前を外し、家族のブログへのリンクの載せ方も変えた。効果はあった。彼女のWebサイトの検索順位はすぐに下がった。

だが昨秋、彼女は埋もれた状態に飽き、もう一度オンラインで目立ちたくなった。そこで、サイトを隠す手法は一切使わず、新しいサイトでブログを始めた。彼女の名前で検索すると、この新たなサイトheatherannehogan.comがGoogleの検索結果の一番上に表示される。

関連記事

[「WSJ」「親バカメール」に悩まされる人たち](#)

[Vauhini Vara , The Wall Street Journal]

この記事はダウ・ジョーンズとの契約の下でアイティメディアが翻訳したものです。翻訳責任はアイティメディアにあります。

Copyright (C) 2006 Dow Jones & Co. Inc. All rights reserved.

新着記事

[PowerPoint脆弱性のパッチは遅くとも8月8日までに、MS](#)

米Microsoftは、PowerPointに発見された脆弱性に対するパッチを、遅くとも8月の月例パッチに合わせてリリースすることを明らかにした。



[金融・経済コラム：新興市場の上場基準に売上高10億円はいかが？](#)

経済番組コメンテーターであり、M&Aアドバイザーや財務コンサルティングを手がける保田隆明氏がIT業界を金融・経済面から語る連載コラム。今回は新興市場の上場基準引き上げの必要性がテーマです。

[Intelの管理職削減は転換計画の一端](#)

今回のレイオフによって、人員削減その他の組織再編が完了するわけではない。オッテリーニ氏は従業員に向けたメモにそう記している。

[Microsoft、決算報告の事業部構成を変更](#)

[ウイルス対策ソフトの更新、多数が先延ばしに 米調査](#)

ウイルス対策ソフトユーザーの65%は更新を先延ばししたことがあると回答。「ほかの作業の邪魔になる」などが主な理由だった。

[速報インデックスへ](#)

Special



[【連載最終回】日本オラクルのBI革命](#)

[真のハイブリッドOLAPサーバーとは？](#)

[New!](#)

[WSJ] 「親バカメール」に悩まされる人たち (1/2)

「かわいいわが子の写真をみんなに見せたい」 そう思うのは当然だが、何百枚もの写真に胎児の超音波写真、帝王切開ビデオと「見せたがり」の度が過ぎてきているようだ。

2006年05月30日 08時30分 更新

(ウォール・ストリート・ジャーナル)

このところ、ラファエル・パートロミー氏の受信メールボックスはますますぎゅうぎゅうに詰まってきている。シアトルの住宅ローンブローカーの同氏のもとには、新しい住宅ローンや住宅担保金融の緊急の依頼に加えて、もっと情緒的なコンテンツ 赤ん坊の写真 の付いたメッセージが定期的に送られてくる。

わが子の新しい写真を定期的を送ってくる友人だけではない。今より大きな家を探している依頼人も、赤ん坊の写真を送ってくるのだ。おそらく、新しい託児所が必要だということを強調したいのだろう。最近では、住宅ローンを探している若い夫婦が、妊娠中の妻の超音波写真を送ってきたという。

「こういう写真をわたしに送ってることが信じられない。2週間前に出会ったばかりなのに」。パートロミー氏は「ステキな写真ですね」「素晴らしい」といった短い返事をするようにしているという。

受信ボックスが赤ん坊（あるいは胎児）の写真攻めに遭っていると感じているのはパートロミー氏だけではない。確かに、多くの方は親しい友人や家族から赤ん坊の写真をもらうと喜ぶ。「赤ん坊の写真が山のように送られてくるが、全然嫌ではない」とミルウォーキーの大学管理者ヘザー・ヘクモビッチ氏は語る。「友情を保つ役に立ってくれる」。しかし、ひそかに反発しているほかの人々は、「オンライン赤ん坊見せたがり症候群」の猛攻撃（と彼らは感じている）にいら立ち、高まる米国民のデジタル写真熱と親バカぶりにうんざりしている。

今やコンピュータのキーを1回押すだけで、親は赤ん坊の最初の入浴、誕生日、さらには生まれたときの写真やビデオクリップがついたメールを、アドレス帳に載った人みんなに送信できる。その結果がこうだ。「メールを受信しました」 ああ、くだらない写真だ。

昨年、米国民が電子メールで送った写真は118億枚、これに対して2000年は26億枚だった。2009年までにこの数は22%増えて257億枚になると調査会社IDCは予測している。専門家は、そのうちかなりの割合が赤ん坊か子どもの写真だと考えている。

子どものオーバーロードを作り出しているのはメールで送られる写真だけではない。多くのオンラインビデオ共有サイトでは、親がビデオクリップを投稿したり、電子メールで送ったりできる。母親（や父親）のブログをホスティングしているサービスは、携帯電話から直接ブログに写真をアップロードできるようにしている。共有したいという気持ちをさらに刺激しているのが、[Womb's Window](#)、[Prenatal Peek](#)などの胎児向け写真スタジオだ。こうしたスタジオでは、妊婦が超音波診断を受け、ビデオと写真の両方を含む胎児の写真パッケージを購入できる。

その結果は、時に見るのがつらいこともある。ビデオ共有サイトYouTube.comには現在、100を超える超音波ビデオと出産の様子を収めた数十のビデオが投稿されている。最近投稿されたあるビデオクリップにはこんな説明書きがついている。「これは帝王切開の映像です。彼女はとてもきれいに見えました」

[1 | 2 次のページへ](#)

[Elizabeth Bernstein , The Wall Street Journal]

この記事はダウ・ジョーンズとの契約の下でアイティメディアが翻訳したものです。翻訳責任はアイティメディアにあります。

Copyright (C) 2006 Dow Jones & Co. Inc. All rights reserved.

[WSJ] 「親バカメール」に悩まされる人たち (2/2)

2006年05月30日 08時30分 更新

[前のページへ 1|2](#)

この猛攻撃は悪化していくようだ。ハイテク好きの保護者を成長分野ととらえるオンライン写真共有企業は増えている。オンライン写真サービスのShutterfly.comの推定では、赤ん坊の写真はナンバー1のコンテンツ分野で、ネットで共有されている写真の30～40%を占めるといふ。また同業のSnapfish.comは、同社の登録ユーザーの70%は子どもがいるとしている。同社は、写真をプリントできるおむつ用バッグやよだれかけなど、これらユーザー向けの製品をますます売り込むようになっている。

チェリーヒル在住のロバート・クレスリー氏(36)にとって、赤ん坊の写真ブームは迷惑なものになってきている。同氏は毎月、ある大学時代の友人から、約50枚の子どもの写真を載せたオンラインフォトアルバムへのリンクが付いたメールを受け取っている。写真の多くは同じものに見える。

「この写真は誰それちゃんが滑り台の上にいるところ、これは滑り台を半分下りたところ、これは滑り台を4分の3まで下りたところ……」。クレスリー氏は初めは慎重に返事を書き、友人の子どもをほめていた。今はただ削除キーを押すだけだ。

もちろん、自己陶醉する親は以前からいた。だが今やオンラインでの写真共有という習慣はテレビCMのネタにもなっている。Time Warner Cableの高速ネットサービス「Road Runner」の最近のCMは、何組かの老夫婦が互いに自分の孫の写真を送りあい、かわいさを競う様子をおもしろおかしく描いている(このCMでは老婦人が「ハロウィーンの写真を送れ!」と命令している)。子どもがますます幼い頃から競争を強いられる文化の中で、多くの親が、生まれる前から子どもを自慢するようになるのに何の不思議があるだろうか。

多くの親は、ただほかの人たちと喜びを分かち合い、連絡を取り合いたいだけだと言う。17カ月前に息子のノア君が生まれる前から、ネイサン・バージェス氏(30)はWebサイトを立ち上げて、胎児の足や頭、生殖器が写った超音波写真を掲載し、サイトへのリンクを電子メールで友人や家族に送っていた。息子が生まれた後は、最初に雪を見たときから最初にマッシュバナナを食べたときまで、あらゆる出来事を時系列順に記録した数百枚の写真をサイトに追加している。

マンハッタンに住む元弁護士バージェス氏は、写真を共有することで、あちこちにいる友人や親戚、コロラド州からフロリダ州に散らばった親戚や、最近までイラクの米軍にいた大学時代の友人、とつながりを持っていると確信している。息子の写真が非常に受けたので、同氏は眠っている息子を映したストリーミングビデオ専用のWebサイト(nycnoah.camstreams.com)も立ち上げ、「Noah TV」にいつログインすればいいかを知らせる電子メールを定期的に送信している。その中の1通には、「小さなスターは今ベビーベッドにいます。もうすぐ昼寝するでしょう(そうなるといいんですが)」と書いてある。

エチケットの専門家は、多くの人に写真を送る場合は、遠慮を見せるべきだと話す。「赤ん坊の写真は1、2枚なら見たいが、大量の写真や、大量でなくてもひどい写真は見たくないものだ」と礼儀作法の専門家レティシア・バルドリッジ氏は語る。同氏はジャクリン・ケネディが大統領夫人だったときにその主任スタッフを務めたこともある。

だが赤ん坊の写真を送られた側も、どんなにイライラしても、常に写真を受け取ったことを知らせて、礼儀を示すべきだ。「必要な言葉は『素晴らしい写真を戴きました』だけ。それで、新しい写真を楽しみに待っているのではないとほめかすことになる」とバルドリッジ氏は話す。それでも察してもらえなかったら、「自分の犬の写真を送ってあげるといい」だという。

よりバランスの取れた生活を支援する本など、5冊の育児書を執筆した作家のミミ・ドウ氏のところには、他人の子どもの写真(や子どもに関するブログ)へのリンクが載った電子メールを山のように受け取っている母親から頻繁に手紙が寄せられている。同氏は、次のような返信を用意しておくようアドバイスしている。「お子さんの成長する様子を見せてくださるご配慮に感謝します。残念ながらわが家のコンピュータはオンライン写真サービスにアクセスできないのです。離れていても心はいつも一緒です」

ミネアポリスで広報関係の仕事をしている独身のビッキー・メレン氏(30)は、もっと過激な対策を取る必要があるかもしれないと決意した。同氏には子持ちの友人がたくさんおり、時には1日に4人の友人から赤ん坊の写真を受け取る。たいいては新しい写真が届くとうれしいが、たまに写真の「爆撃」が重なると、自分の人生が妙にむなしく感じられてしまうという。最近、同氏はお返しに自分の送りたい写真を送ろうと考え始めている。「わたしの生活の中で大事なものの写真を送ります。新しいジーンズです」というふうに。

もちろん、ケン・フレーガー氏(43)のように、そうしたほめかきを察して配慮することができない、あるいは配慮したくない、親も常にいる。同氏はよく自慢の娘サラちゃんの写真を一度に60～100人に送っている。相手は高校時代や大学時代の友人、同僚、さらには以前の勤務先の役員にまで及ぶ。「これは人付き合いの方法の1つだ」とボルティモアのJohns Hopkins Medicineでマーケティングを担当するフレーガー氏は言う。だが同氏は最近、何カ月もの間写真を送っていた相手の1人からこんな返事を受け取って驚いた。「あなた誰ですか? わたしはあなたのこと知らないんですけど。あなたの娘さんはかわいいけど、もう写真は要りません」

フレーガー氏は、この困惑した受信者を慌てて配信リストから外した。だが同氏はこう語っている。「もしわたしが本当に賢かったら、返事をしてこない人たちも写真を見たがっていないということに気付くだろう」

赤ん坊の写真に関するエチケット

礼儀作法の専門家レティシア・バルドリッジ氏が贈る、友人や家族に赤ん坊の写真をメールで送信するときのアドバイス。

たくさん送らないこと。1～2枚で十分。
親しい人にだけ送ること。仕事関係の人には送らない。

クオリティの高い写真を送ること。
文章は長くしないこと。受信者がさっと読めるように。
衣装を着た姿の写真を送らないこと。子どもの顔が見えるようにするべき。
相手が祖父母の場合はこの限りではない。相手が望むだけ送ってあげること。

関連記事

[「WSJ」クレジットカードを「レンジでチン」する人たち](#)



[思い出なぞれば写真が語り出す](#)

子ども向け写真館に“しゃべる写真”が登場。写真と一緒に声を保存できる。カギとなるのは、透明な2次元バーコードだ。

[前のページへ 1|2](#)

[Elizabeth Bernstein , The Wall Street Journal]

この記事はダウ・ジョーンズとの契約の下でアイティメディアが翻訳したものです。翻訳責任はアイティメディアにあります。

Copyright (C) 2006 Dow Jones & Co. Inc. All rights reserved.

新着記事

[PowerPoint脆弱性のパッチは遅くとも8月8日までに、MS](#)

米Microsoftは、PowerPointに発見された脆弱性に対するパッチを、遅くとも8月の月例パッチに合わせてリリースすることを明らかにした。



[金融・経済コラム：新興市場の上場基準に売上高10億円はいかが？](#)

経済番組コメンテーターであり、M&Aアドバイザーや財務コンサルティングを手がける保田隆明氏がIT業界を金融・経済面から語る連載コラム。今回は新興市場の上場基準引き上げの必要性がテーマです。

[Intelの管理職削減は転換計画の一端](#)

今回のレイオフによって、人員削減その他の組織再編が完了するわけではない。オッテリーニ氏は従業員に向けたメモにそう記している。

[Microsoft、決算報告の事業部構成を変更](#)

[ウイルス対策ソフトの更新、多数が先延ばしに 米調査](#)

ウイルス対策ソフトユーザーの65%は更新を先延ばししたことがあると回答。「ほかの作業の邪魔になる」などが主な理由だった。

[速報インデックスへ](#)

Special



[【連載最終回】日本オラクルのBI革命](#)

[真のハイブリッドOLAPサーバーとは？](#)

[New!](#)